



ぽっかぽか ぞう組



新しい年があけました。去年は様々ご協力ご理解頂きまして大変にありがとうございました。思い返すと4月進級から遠足、運動会やアートそして子ども会…緊張とちょっぴりの不安も交わりながらワクワクドキドキ！嬉々とした子どもたちの姿に成長を感じる一年でした。一方で、新たな挑戦や活動でも子どもたちが最大限に力を発揮するための土台「安心できる変わらない生活」も大切にしながら過ごしてきました。今回はそんな子どもたちの「日常」をご紹介しますと思います。



ぎょうじずかん



ぞう組になってから提供している「ずかん」。今まで園で使用していたものは小学生向けだったので見直しをして情報量が多すぎず持ち運びしやすい3～6歳向けの図鑑をシリーズで揃えています。その中でも活用しているのが「ぎょうじずかん」。子どもたちと開きながら風物詩や行事を調べています。先月はクリスマスやお正月について調べました。「うちに煙突ないけどサンタさんは来てくれるかなあ」「サンタさんて飛べるの？」という微笑ましい会話。おせち、羽根つき、独楽、鏡餅など紹介すると「これしってる！」「(顔に墨で落書きされているイラストをみて)これ、なにやっているの？」など会話から「なぜ？」「なに？」がたくさん湧いてきます。実際に遊びで独楽を提供すると「これ！ずかんにあったよ！」と笑顔になる子。「昨日スーパーに行ったら鏡餅があったけど、なんか猫もついてた。なんでだろうね？」という子もいて、実際と異なる違いについて発見する子も。図鑑の良いところは大人の私たちも知らないことが載っているのと一緒に「そうなんだって！知らなかったね！」と驚きを共有できること。日々暮らしていると当たり前に過ごしていることも、様々な文化や風習の知識を得ること、子ども達自身の体験につながっていることを感じます。



お手伝い



自分で出来る力を積み重ねている子どもたち。「手伝って」と自分では出来ないことがあると大人に助けを呼ぶ、このこと自体「自分で出来る力」となっています。そんな子どもたちはお手伝いも積極的です。「こどもだから」ではなく、一緒に生活する対等な存在として、出来る限り工夫や配慮を行い、お手伝いをしてもらっています。台拭きはもちろん、おやつ後の掃き掃除、濡れた床を雑巾で拭くそして事務所へのお使い。やりたい気持ちだけでなく「他の人の役に立っている喜び」を感じることで周りの人を大切に思いやる心にもつながっていると思います。ご家庭でもお勧めしたいのですがポイントが3つ。一つは「本人が本当にやりたいことか」大人が手伝ってほしいことを押し付けてはいけません。そして「一緒にやる」。任せきりではなく一緒に行くまたは見守りをします。最後は「会話」。お手伝いをしてくれて嬉しい気持ちを具体的に伝えてあげてください。大好きなお家の人に言われた「ありがとう」は心の栄養になります！

「みてみて！」「ぶつかっても止まらないよ！」

「やりたーい！」とかぶの葉っぱに色付け中